

この力で60・3阻止3・24決起

動労千葉

85. 3. 5

No. 1880

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

熱気あふゆる三里塚二期着工阻止をめぐり総決起集会

「60・3」をめぐる緊迫した状況の中で、3月2日、動労千葉は総決起集会を開催し、第一波闘争を闘いぬいた地平のうえに「60・3」をトコトン闘いぬき、その力で3・24三里塚へ三たびの五割動員を貫徹し、反動中曽根内閣を猛追撃する、今春・三里塚―国鉄決戦爆発への闘いにしてでることを全体で確認した。

第一波に勝利したぞ！

―動労千葉を先頭に千百名意気高く結集―
「3・2動労千葉総決起集会」の会場、千葉市中央公園には第一波闘争をやりぬいて意気あがる組合員と、国労をはじめ支援の労働者・学生が続々と結集する中、18時に集会が始まった。

千百名の大結集を前に、片岡執行委員が開会を宣言、「本日の集会を契機に、『60・3』粉碎―三里塚二期阻止―中曽根打倒にむけ、第二波、第三波の徹底した実力反撃戦にうってでよう」と呼びかけた。主催者を代表してあいさつにたった中野委員長は、「60・3」を恐るべき大量首切りの突破口ととらえ、全国的に動労「本部」革マルを中心に妥結する状況の中で、唯一動労千葉が実力闘争に決起し当局を追いつめた闘いを報告した。そして、国鉄労働者の任務について、最悪の裏切り者―動労革マルと断固闘い、「60・3」を「過員」―首切り攻撃を許さない、そして基地を守る闘いとして、団結を守って全力で闘うと同時に、3・24に三たびの五割動員を貫徹し、反動中曽根の「総決算」攻撃をガタガタにゆさぶる日本階級闘争の実力反撃の時代を切り拓いていこう、と確信も固く訴えた。

闘いはこれからだ、最後までも実力闘争で我々は勝ち進む。

労働者の心を揺さぶった動労千葉の実力決起

この集会には三里塚からも反対同盟の農民が多数かけつけ、代表して北原事務局長が登壇した。北原氏は「二期阻止を闘いぬく反対同盟と、全国の労働者の最先頭で闘う動労千葉を車の両輪として、中曽根打倒にむけ共に闘いぬこう」とあいさつされた。

つづいて、動労千葉支援共闘会議を代表して、高島喜久男氏は「革マルは明日を闘うために今日闘わないなどとベテンをいっているが、今日闘わなくて明日闘うことはできない。動労千葉は孤立して闘っているように見えるが、全国の労働者が熱い眼でみつめている」と激励された。さらに、かけつけた国労の仲間からは「動労千葉の2・20、21順法闘争を知って、多くの職場で『ああいう風に闘うべきだ』という声があき起っている。動労革マルを放逐し、3・24動労千葉と共に全国からの決起をかちとる」との決意が表明された。全通東京空港支部の岩本書記長は「成田への業務移管―廃局攻撃に対し、反対同盟の不屈の闘いに学び、動労千葉につづいて闘う」と述べ、駅頭やホームで支援・激励行動に起った若い学生からは「闘う労働者の力に胸が熱くなった。三人に一人の首を切る中曽根の攻撃に学生としても許せず支援に起った。労働者と共に闘い、3・24に決起する」との決意が表明された。

「60・3」闘争と結合し、

「3・24」三里塚五割動員を実現しよう！
多数の概電・メッセージが紹介されたのち、布施書記長から「基調」が提起された。

布施書記長は、まず最初に、国鉄労働運動の屈辱状況を突き破り唯一実力決起した第一波闘争の意義を確認した。そして「60・3」が国鉄労働運動の解体を狙ったものであることの本質を明らかにした。その上で、第一波闘争の勝利と結合した「3・24」五割以上の動員を実現し、中曽根打倒にむけ闘うことの重要性を提起した。全体の拍手で圧倒的に確認したのち、各支部の決意表明に移った。

全支部を代表して津田沼支部の重見副支部長が、「当局と動労『本部』革マルの庄殺策動を粉碎して第一波に勝利した。この力で3・24に全力決起する」と述べ、勝浦支部の鶴岡支部長は「全力で闘った。組合員の夢と希望をかなえるためにも、更に実力闘争を強化して闘っていこう」と千二百組合員、いな、全国三十二万国鉄労働者の怒りと期待と決意を鮮明にした。

集会は山口副委員長の音頭で団結ガンバローを三唱の後、千葉鉄道管理局まで意気高くデモ行進し、最後まで断固として闘いぬく決意を示した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！